

選手直前インタビュー 俺の出番だ!!



長島 大介

(栃木/96期)

昨年は8月高知記念を含み4Vを達成していて、持ち味の自力攻撃には一段と磨きがかかった印象だ。全日本選抜の一次予選では小原佑の逃げをまくって2着、神山拓と栃木ワンツウを決めた。初の地元開催のビッグで気合も倍増。

隅田 洋介

(栃木/107期)

今年は初戦の1月立川記念2⑥①②着と好スタートを決めた。その後も十八番のまくりを主武器に勝ち星をゲットしていて、3月名古屋記念2①④④着も動いていた。スピードの切れには素晴らしいものがあり、ビッグレース初参戦でも軽視は禁物。



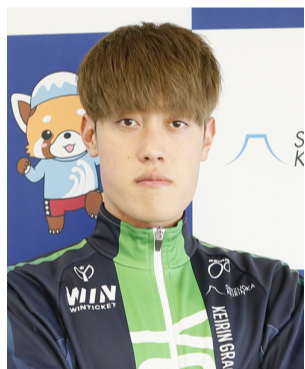
松井 宏佑 (神奈川/113期)

全日本選抜では③①⑨①着と2勝をマーク。やや中途半端になった準決は惜しまれるが、二次予選で吉田拓、北津留翼、三谷竜らを相手に逃げ切ったレースは圧巻だった。自慢の快速を遺憾なく発揮なら上位進出望める。



町田 太我 (広島/117期)

2月松山、同月小倉とF1戦で続けて決勝を外していて、今期はあまり動きが良くなかったが、全日本選抜⑥②②③着は復調を感じさせた。勝ち星こそなかったものの、4日間最終バックを取っておりスピードが甦った。



井上 昌己 (長崎/86期)

2月佐世保では3連勝で今年の初Vを飾ると、全日本選抜は②⑤⑤①着と2連対を果たしていて、ここのところ伸びの良さが目に付く。しっかりした目標があるレースはもちろん、混戦模様のレースは目が離せない。



GIRLS' KEIRIN コレクション 2022 宇都宮ステージ

最終日 (3/21) 9R

今年最初のビッグレース。小林優香、梅川風子、佐藤水菜と短距離強化指定選手が出場するだけに一筋縄ではいきそうにないが、児玉碧衣がガールズケイリンをリードし続けてきた意地を示すか。グランプリ女王の座は高木真備に譲ったとはいえ、ガールズケイリンフェスティバルの挫折で闘志に火が付いた児玉の勢いは強烈だった。そこから34連勝してガールズの連勝記録を更新。今年に入っても5戦で14勝して全てV。ホームバンクの久留米が開催で使えない苦境も乗り越えた底力は計り知れない。グランプリは他の選手の動きと展開を読み違えたことが敗因となったので、自分から積極的にアクションを起こして主導権を奪いについて力勝負を制する。

強化指定の3人から優勝者が出る可能性も十分。3人とも男子レベルのスピードを誇り、走れば結果を出してくるので優秀付け難いが、伸び盛りの勢いという点で佐藤に最も魅力を感じる。世界選ケイリン銀メダリストという実績もさることながら、レースでも目下19連勝中。破壊力満点のまくり、カマシで昨年5月のコレクションに続き児玉超えも。

児玉碧衣が意地を見せる



児玉碧衣